

くらしとごみ

最終回 自然界にごみはない

金子 泰純

生きていくには、ごみを出さないわけにはいきません。環境省によると、平成 28 年度末で一人一日当たり 925 グラムのごみを出しています。これ以外にも工場等から製造工程でのごみがおよそ 8 倍も出ていますし、排水や排ガスも広い意味でのごみです。地球温暖化（気候変動）の主な原因は、化石燃料の使用による二酸化炭素の排出です。これは、地球の内部から石油や石炭、天然ガス等の資源を採取してエネルギーとして利用し、その結果生じる二酸化炭素をごみとして大気中に捨てることによって起こっているといえます。

世界の人口は、現在 76 億人ですが、まだまだ増え続け 2050 年には 97 億人と推計されています。人口の増加と経済活動の拡大により、地球環境は限界に近づきつつあります。頻発する異常気象、野生生物種の絶滅、海洋汚染の拡がりは、地球が発する警告ではないでしょうか。このような事態を踏まえて、私達人類が将来世代にわたって発展を続けていくために、持続可能な開発や SDG s が提唱されているのです。

使い捨てプラスチックの問題を改めて考えてみましょう。プラスチックは自然界ではなかなか分解しないため海洋汚染や野生生物の命を脅かしています。燃やせば温暖化の原因となる二酸化炭素を排出し、限られた資源の石油を消費します。この問題を解決するために、私たちはどうすればいいのでしょうか。

使い捨てプラスチック製品はできるだけ使わない、より環境負荷の小さい代替品を使う、繰り返し使い長持ちさせる、リサイクルするということです。ストローを使わないで飲む、紙製のストローで代用する、マイストローを持参する、使用済みのプラ製ストローは再生資源とする、を実行すればよいのです。

そもそも自然界にはごみはありません。生物の排せつ物や死骸は多くの微生物が分解し栄養素として循環しています。私たちの社会が持続するためには、地球の恵みである資源を大切に使い、地球環境を汚染しないように循環利用し、最後は無害なかたちで地球に還元することしかないのです。私達のくらしはごみを通じて地球環境と密接に結びついています。ひとり一人がレジ袋とペットボトルの代わりにマイバッグとマイボトル（水筒）を持ち「使い捨てプラスチックを使わない」生活スタイルに変えていきましょう。地球環境問題は大きな問題ですが、自分にもできることから解決に努力されることを期待します。

最後までお付き合いいただきありがとうございました。

<かねこ・ひろずみ／和歌山大学システム工学部 教授／COC+推進室長>